

# みやこくじよ



## No. 34

発行日 2014年1月1日  
 発行 独立行政法人国立病院機構 都城病院  
 宮崎県都城市祝吉町5033番地1  
 TEL 0986-23-4111

**基本  
理念**

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

## 新しい年の初めに

病院長 井 口 厚 司

新年あけましておめでとうございます。

午（うま）年は十二支ではちょうど中間に位置しているため、午の刻は昼の12時を中心とする約2時間を指し、昼の12時を正午とも言う由来とされています。そのためか、午年はひとつの頂点となり、上昇していたものがその後下降に転ずる年と言われているそうです。確かに国内の歴史をみてもミッドウェー海戦やバブル崩壊など思い当たるできごとが過去にはあったようですが、結構あてつけのような印象もあります。

さて、では都城病院の場合を考えてみますと、下降に転ずるところか、まだまだこれからなお一層上昇していく要素が多分にあるように思います。昨年末に発表された平成24年度の国立病院機構による病院業績評価で、都城病院はそれまでのBランクから一気に2段階上昇し、Aランクと評価されました。しかも、あと2ポイントあれば最高のAAランク病院の仲間入りができたところでした。ポイントの大部分は病院経営が評価されたためであり、これは職員の皆様の普段の努力の賜物と感謝いたします。これは今年度に入りましても概ね好調が維持されており、今後の皆様の頑張りもあるでしょうし、来年の評価でも下がることは少ないと考えています。その一方で、医療の面の評価においてはまだまだポイントを獲得できる余地があり、これからの努力によってさらなる加点が期待できます。最も今後力を入れる必要がある領域は、当院にとって長年の課題でもある臨床研究および教育・研修の分野です。そしてもうひとつは、紹介率・逆紹介率をさらに上げ

るためにも地域連携の推進が挙げられます。前者においては昨年より臨床研究部長が就任し、また年末から臨床研究部秘書（教育研修部、臨床研修センター秘書も兼務）を配置し、情報の収集や発信ができる体制を整えました。臨床研究は医師、看護師だけのものではありません。メディカルスタッフの皆様も是非、日常の診療面での疑問や興味をテーマにして斬新な臨床研究を考えてみませんか。そして学会や研究会での発表だけでなく、できれば相応の雑誌への投稿も検討してください。臨床研究部は研究の企画から実施まで協力を惜しみませんし、何より国立病院機構には質の高い臨床研究を実施できるしっかりした基盤が確立されています。機構内だけではなく大学などとの共同研究や臨床治験への参加も積極的にアプローチしてほしいものです。一方、後者についてですが、地域連携室の増改築やMSWの増員などさらなる環境づくりをして、一層地域連携を促進していくことにしています。また、年明けからいよいよ前立腺がんの地域連携も開始になります。2月には2回目の病診連携の夕べを開催します。さらに4月以降も、診療部門において様々な面で新たな展開が予定されています。10月には病院機能評価受審が控えています。今年は午年ではありますが、職員の皆様の一致団結したパワーによって午年のジंकスを吹っ飛ばし、さらにさらに上昇していく一年であってほしいと願っています。皆様、本年もよい年でありますように。



## 第4回がん市民フォーラムの開催について

平成25年10月19日 都城ウェルネス交流プラザにて、第4回がん市民フォーラムを開催しました。当院は平成17年1月に地域がん診療連携拠点病院に指定され、基本的施策でもある「がんの予防および早期発見の推進」の取り組みとして、都城市民の健康な生活、がんの早期発見・治療に貢献できるよう、市民フォーラムを都城市、保健所および当院と共催で平成22年より開催しています。今回の開催内容は、「今年も笑いながらがんを学ぼう」と昨年引き続き笑いをテーマに開催しました。会場の入り口に、健康相談のブースを設置し医師2名による健康相談、がん相談、薬相談、栄養相談とフォーラムの開始前の時間を有効に利用しました。オープニングは、昨年好評であった山田のかかし笑劇団（都城市の劇団）に依頼し、「家族ががんと疑われたら」と題し、みやこんじょ弁で再検診通知をもらった主人の悩みや入院の心配などを題材にした寸劇を演じていただきました。本寸劇によりがんの早期発見の有効性、検診の必要性をおもしろおかしく演じられ会場は笑いにつつまれ笑いながらがんについて学びました。（素人の集まりの山田のかかし笑劇団の皆さんご協力ありがとうございました。）

引き続き当院の井口院長による「おしっこが、近い、出にくい、もれる」～膀胱がん・前立腺がんにも ご用心～のテーマの講演を行いました。講演の中で日本人の3人に1人はがんで死亡していることを、年末ジャンボの宝くじ置き換えて誰にでもわかりやすい話方で説明がありました。昔はがんで死亡する人の第一位は胃がん、子宮がんが多かったが、国の政策による胃がん検診車・子宮がん検診車により減少など、高齢化と食生活の変化によりがんの死亡率が肺癌、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんの傾向に変わってきている。などがんの予防と早期検診の大切さを学びました。

樋口強先生による特別講演では「笑いは最高の抗がん剤」について話がありました。樋口先生は43歳のとき、悪性度が高く生存率が極めて低いと言われている肺小細胞がんを患い、がん患者のひとりであり、手術と抗がん剤で乗り越えられ抗がん剤の後遺症で全身のシビレが残るも、家庭でのリハビリで普通のことが普通にできる喜びが命のささえと全国のがんの人と家族に元気を発信されています。また全日本社会人落語協会副会長に就かれており、話は苦労話や日常生活の一幕を笑いに変えて明日の元気に繋げていくという落語調の話は会場を笑いに変えていただきました。

がん市民フォーラムを終えて、地域の皆さんの健康な生活、がんの早期発見をはじめがん患者と家族の悩みを理解し、少しでもお手伝いができる取り組みをしていきたいと思えます。



## 『実習指導者講習会を受講して』

私は、8月お盆の時期から2カ月間、九州医療センターで実習指導者講習会に参加させていただきました。国立病院機構の九州ブロックから34名、スタッフから看護師長までが集まり、職位に関係なく委員長を決め、週番を決め、研修生として同じ机で学びました。面識のある人はなく緊張しましたが、転任や配置換した職員の近況を聞き、九州ブロックの研修ならではの繋がりを感じました。

研修では、看護理論や実習指導案作成を通し、言葉の共通理解から始まり、一文章、一段落ごとに読み解きを行い、悩み、苦しみながら眠れぬ夜を過ごし、発表を行いました。その反動か、研修生全員でヤフオクドームに野球観戦に行った時は、みんなで騒ぎ、はじけました。

初めての場所で初めて出会う仲間とグループをつくり、講義で学んだ技法や考え方を言語化し、さらに文章で表現するというプロセスは看護学生が経験する学びのプロセスであり、今回の研修で実体験することで、学生体験（学習者）をすることができ、学生の「分からない事がわかる喜び」「記録が書けないつらさ」「認められた嬉しさ」を感じることができました。

長く苦しい2カ月間、でも、もう一度参加したい楽しく短い2ヶ月間でした。今後は、この学びを当院実習指導に活かしていきたいと考えています。



2病棟看護師  
池澤 京子



## 日本医療マネジメント学会に参加して

10月11・12日に日本医療マネジメント学会第12回九州・山口連合大会に参加しました。都城病院からは口演6題クリティカルパス1題の発表がありました。学会のテーマは持続発展する医療の未来に～超高齢社会への医療対応で、高齢化がますます進む今後、医療がどう対応していくのか、とても興味深いものでした。私は医療安全の部で「注射実施時の確認行動への取り組み～リスク評価表を活用しての調査を実施して～」という題で口演発表を行いました。年間で与薬のヒヤリハット事例はどの施設でも上位を占め、確認行動の取り組みは盛んに行われていました。与薬確認行動の調査の時は改善があっても、月日が経つとまた同じような事例が発生することから確認行動を定着させていく必要があると思いました。その他に印象に残った発表として、東日本大震災や長崎のグループホーム火災の例を参考にして、防災対策の発表がありました。消防との通報の際、場所が特定できるようなシステムの構築がされ取り組まれています。学会開催中にも福岡で整形外科病院の火災で入院患者死亡の火災があり、防災対策の重要性を再認識しました。避難訓練は自施設でも行なっていますが、日頃から火災時どのような行動をとるのが、シュミレーションを行ったり、非常持ち出し物品の点検、環境整備も災害防止の観点から行っていかなければならないと思いました。毎回学会に参加すると、最新の医療の動向や他の施設の取り組みを知り多くの事を学ぶことができました。学会での学びを看護の質の向上のため医療安全活動に生かしていきたいと思えます。



（文責：3病棟 定益 政子）

## 第67回国立病院総合医学会に参加して

平成25年11月8～9日の2日間にわたり第67回国立病院総合医学会が石川県金沢市にて開催されました。『Vita Nuova! 国立医療 ～新たなる船出に向けて～』をテーマに143施設の国立病院機構をはじめ、様々な施設からシンポジウムや約2400題の一般演題が発表されました。当院からは各職種（医師、看護師、管理栄養士、診療情報管理士、事務）合わせ10演題がエントリーしました。私は、病院情報システムを運用していく基礎となる患者登録について『患者ID二重登録「ゼロ」に向けての取り組み』という演題名で発表しました。自分は学会に縁がないと考えていましたが、初めて参加させていただき、貴重な経験を得ることができました。私にとっては、とても勉強になり、明日に繋がる第一歩でした。今回4分間という限られた時間の中で自分たちの成果をまとめることは大変でしたが、口演を通じて学会発表までのプロセスの重要性、今後の課題を見出し、達成感を味わうことができました。

また他の施設の取り組みを口演やポスター発表を聞くことによって、当院に不足している側面を確認することができ、新たな視点で物事を捉えることができるようになったと思えます。



特に8日のランチョンセミナー「2014年度の診療報酬改定と病院のあり方」では、入院の在り方（急性期等）、急性期における看護配置（7対1）の基準、バイオ医薬品の動向、将来の医療機能の分化・集約化などが口演され、今後の医療を改めて考える良い機会となりました。私も事務職の立場から、高齢者の増加に伴う急性期医療を、都城病院としてどのような立ち位置で支えていくべきか考えさせられました。

国立病院総合医学会に参加して得た知識を日常業務に生かし、より良い病院運営に努めていきたいと思えます。

（文責：算定・病歴係 増元光希）



## 緩和ケア研修会を開催して



11月23、24日に「平成25年度第5回宮崎県緩和ケア研修会」を開催しました。

この研修会は厚生労働省のがん対策基本法に基づく、がん対策推進基本計画において「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標としていることを受け、全国の地域がん診療連携拠点病院で開催することが求められています。

県内でも宮崎大学医学部附属病院をはじめ、拠点病院が毎年開催しています。当院は今年度最後の開催となりましたが都城市内のみならず県南、県北からもたくさんのご参

加を頂きました。

2日間ともに朝早くから夕方まで非常にハードな研修で参加された先生方も大変お疲れになったことと思います。しかし、この研修会は講義だけでなく告知を受ける立場の患者役等を体験したりコミュニケーションロールプレイなど普段なかなか経験することがない研修プログラムとなっており、戸惑いながらも懸命に役を演じておられました。全課程終了後のアンケートには「なかなか体験できない研修パターンで大変勉強になった」「ロールプレイは難しかったがよい体験ができた」など多くの感想を頂き今年度も無事に終了できたことに安堵しています。

また、今回の研修会を開催するにあたり院外より講師としてご協力頂きました7名の先生方へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責：地域医療連携部 医療社会事業専門員 和田智美)



## 2013健康フェスタ

平成25年10月5日(土)生憎のどしゃぶりの中、「雨二モマケズ」都城病院附属看護学校と共催して「2013健康フェスタ」を開催しました。

職員・学生一同おそろいのユニフォームで一致団結して、フェスタを盛り上げようと色々なイベントを企画し、日頃の仕事ぶりとは違う一面を存分に発揮して楽しみました。

地域の住民の方々も、悪天候のなか300名近くが来場してくださり、フェスタを賑やかに楽しんで頂き、よき思い出となりました。





## 看護学校祭り

### 独立行政法人国立病院機構都城病院附属看護学校祭

独立行政法人国立病院機構都城病院附属看護学校 教員 西園 里美

今年度の看護学校祭は、当校の母体病院である都城病院の「健康フェスタ」と共催で行いました。当日は、雨天の中、朝早くから病院職員の協力を得て準備を行いました。病院の外来フロアでは、看護師の方々と協力し健康チェックコーナーを設け、血圧



測定、脳年齢・血管年齢コーナーには、多くの方々にご来場いただき、現在の健康状態を知っていただく機会となりました。また、学生主体で行うバザーや模擬店も、今年度は病院にブースを設けさせていただき、雨の中ではありましたが多くの方々にご来場いただきました。模擬店では特に豚汁が大盛況で完売することができました。来年度も地域の皆様のご来場をお待ちしております。

### 第67回戴帽式を終えて

独立行政法人国立病院機構都城病院附属看護学校 67回生 塩田 茉央

戴帽式を終え、私はナースキャップを戴き、ナイチンゲールの灯を受け継ぎ、誓いをたてたことで、“看護師になる”ということ強く意識しました。そして、私は看護師に近づくことができた喜びと人の生命にかかわる責任感を抱いています。

看護師になるうえで、豊かな知識と確かな技術を身につけることは、どんな場面でも臨機応変に対応し、冷静さを保つために大切だと思います。また、患者さんの見えない部分に気づき、看護できるように、思いやりの心を大切に、様々な医療従事者と協力して患者さん方により良い看護を提供する為、コミュニケーション力を高め、チームの一員として行動ができるよう協調性も養っていききたいと思います。今後、多くの困難に直面することもあると思いますが、困難を乗り越えてこそ成長できる自分があるのだと思います。祝辞でいただいた「人としての自分を磨く」ことに努めていきたいと思っています。

今回の戴帽式を、看護師になる為のスタートラインと考え、目標に向けて一生懸命努力していきたいと思っています。







## クリスマスコンサート

患者さん・ご家族に癒しを提供し、病や障害を抱え不安や悩みなど様々な想いの負担を軽減でき、クリスマスを楽しんでもらうことを目的として、12月24日(火曜日)に、当院1階ラウンジにて、クリスマスコンサートが開催されました。会場はラウンジから一変、クリスマスコンサート会場に彩られ、コンサートはオープニングの地域医療連携室によるハンドベルで幕を開けました。続いて小児科の檜木仁先生による「ジングルベル」「きよしこの夜」のピアノ演奏にあわせた看護師長会の



コーラスでは、聞きなれた曲を患者さん、家族が口ずさんでいました。また、檜木先生のプロ並みのサプライズのピアノ独奏もあり、クリスマスコンサートを盛り上げてもらいました。そして、会場が歓喜に包まれた圧巻の呼吸器外科加藤文章先生によるギター演奏と、整形外科医長の吉川教恵先生の声量感あふれる歌のコラボでは、吉川先生の「愛燦燦」の歌に涙する患者さん職員もいて、様々な想いに歌唱力が加わり感動的でした。最後は看護学校の米村教員、岡田教員のクラリネットとフルート演奏などプログラムは進行しました。会場はハーモニーに聞き入ったり、リズムに体を揺らしたりと、思い思いに美しい音色を楽しんでいる様子が伺われました。また、サンタクロースに扮した当院の職員により、クリスマスプレゼントが患者さん一人ひとりに手渡しされ、会場には沢山の笑顔があふれていました。

今回、当院の初めての試みであったクリスマスコンサートは企画から開催までわずか1ヶ月もありませんでした。院内の各部署や看護学校だけでなく、都城商業高校2年生の生徒さんがボランティアとして、クリスマスプレゼントに添えた、クリスマスカードの作成に参加してもらうなど、多くの方々の協力により手作りの心温まるクリスマスコンサートが開催できました。そして、患者さん、家族と病院職員が交流でき、クリスマスの楽しさを共有できた時間でした。

(文責：地域医療連携部 副部長 鳥丸章子)





## 地域医療連携室の新年のあいさつ

新年、あけましておめでとうございます。旧年中は外来、入退院の患者を通じて地域の医療機関を始め関係機関の職種の皆様にお世話になり、ありがとうございました。昨年は地域連携室の新たな取り組みとして6月から大腿骨頸部骨折地域連携パスの稼働、9月には病診連携の夕べの開催など、地域の医療機関との連携を深める機会となりました。また、地域医療連携室は都城病院主催の研修の案内、申し込み受付も行っており、昨年は多くの方々の参加を頂きました。今年も院内の教育研修部と連携し、皆様に多くの専門分野の研修を案内していきたいと思ひます。



都城病院地域医療連携室は今年も地域の医療機関と更なる連携強化をめざし、躍動的に活動していきたいと思ひますので、御協力よろしくお願ひいたします。  
(文責：地域医療連携部 副部長 鳥丸章子)

## 年男・年女



薬剤科長  
二渡 良智

年男に還暦と盆と正月と一緒にやって来た様な年ですが、うれしい様な悲しい様な、今年はいろいろ衰えて来ている体力、気力、記憶を何とか保持し、職場ではセクハラ・パワハラと誤解されない様注意をはらい、世間で流行の心の病にかからない様、趣味で気分転換を行いながら、人生一区切りのゴールに向かって楽しく、気を引き締めて頑張っていこうと考えております。



専門職  
嶽本 政志

あけましておめでとうございます。とうとう4回目の年男になってしまいました。振り返ると、過去の年男の年は、様々な者(物)を追いかけていた年であったような気がします。

- ・毎日、野球ボールを追いかけていた1回目。
- ・女性(今の妻です。)を追いかけ続けていた2回目。

・悪ガキ(息子)を追いかけ回していた3回目。それぞれに記憶に残る楽しい年でした。

4回目の今年は、何を追いかけてようか思考中ですが、くれぐれも“仕事”にだけは追いかけれられないように、“やれば出来る仕事と子供”という、昔の上司の言葉を再認識し、何事にも取り組んで行きたいと思ひます。

また、仕事でもそれ以外でも、周りには決して流されないように“気ままに自分の道を”をモットーに自分のペースで、記憶に残る良い年に出来ればと思ひます。よろしくお願ひ致します。



契約係員  
尾崎 翔

今年度の10月に採用された尾崎翔です。採用当初はわからないことばかりで自分にちゃんとできるだろうかと不安に感じることもありましたが、先輩方の指導もあり少しずつではありますが、仕事に慣れてくることができました。しかしながらまだ慣れない面もあり、まだまだ覚えなければならぬことも多くあると思ひます。来年は少しでも早く仕事を覚え、都城病院が円滑に診療業務を行えるよう努力していきたいと思ひます。



管理栄養士  
高田 紗綾

皆さん新年あけましておめでとうございます。栄養管理室の高田です。早いもので福岡病院から都城病院に異動してから、3ヶ月が経ちました。都城病院で治療食の展開や癌の栄養管理など新たに学ぶ事も多く、とても充実した3ヶ月だったと思ひます。しかしながら、日々の業務に慣れる事に一生懸命で自分には向上心というものが少し欠けていた気がします。今年は自身の干支にちなんで馬の様に駆け昇る一年にしていけるよう精一杯努力していきたいと思ひます。1月を向えてからは、生活習慣病教室や母親学級など新たな事にチャレンジしていきます。知識を得る事、経験する事で満足せず、患者さんにより良い栄養管理や栄養指導を提供したいという気持ちを第一に考えていきたいと思ひます。気持ちを新たに、今年もよろしくお願ひいたします。



1病棟助産師  
重富 幸子

早いもので3度目の年女になります。助産師経験13年になりましたが、日々妊産婦さんや新生児にエネルギーをもらいながら仕事をしています。

今思えば、2度目の年女の時には先輩の影響から母乳育児支援に関心を持ち、1年かけての研修を受けるか悩んでいた時期でした。今の私があるのも、良き先輩の後押しがあったからだと思ひます。ありがたいことに都城病院でも母乳外来を担当させていただいています。当院はハイリスクの患者様が多く、産後のサポートも大切です。今後も少しでも多くのお母さん方の力になればと思ひます。



4病棟看護師  
大牟田 フミ

この度、5回目の年女を迎える事が出来皆様のお陰だと思ひます。馬い棒馬し。馬年は、縁起の良い年で「物事が“馬”<行く。>」等と言われ幸運が、駆け込んで来るそうです。今年も馬く行きますように



# 外来診療科別週間担当医当番表

独立行政法人 都城病院  
国立病院機構

受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 26 年 1 月 1 日】

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 (血液内科は紹介予約制) ※1	初診 血液	前田 宏一	休診		
	肝	加藤 順也			
	特殊 がんサポート	白土 明美 (第三月曜日午前)			
再診	前田 宏一	加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也
循環器内科	阿南 隆一郎	阿南 隆一郎	阿南 隆一郎		阿南 隆一郎
呼吸器内科	初診	後藤 康高	後藤 康高	後藤 康高	後藤 康高
	再診				
呼吸器外科 ※2	初診	手術日	前川 信一 前川 信一	前川 信一 前川 信一	手術日
	再診		加藤 文章	加藤 文章	
小児科 ※3	一般外来(午前)	高崎 泰 榎木 仁	榎木 仁 並河 紳	吉松 秀隆 並河 紳	高崎 泰 榎木 仁
	特殊外来(午後)		乳児検診	予防接種	並河 紳 吉松 秀隆
外科	初診 ※4	後藤 又朗 後藤 又朗		後藤 又朗 後藤 又朗	長井 洋平 後藤 又朗
	再診	藤元 一 蔵	蔵元又は長井	後藤 又朗 藤元 光	蔵元又は長井
整形外科	第1診察室	税所 幸一郎		吉川 教恵	
	第2診察室	菅田 耕	吉川 教恵	菅田 耕	吉川 教恵
リウマチ科	税所 幸一郎	税所 幸一郎 (再診のみ)	手術日	休診	税所 幸一郎 (再診のみ)
泌尿器科	1診	手術日	森 勝久 米澤 智一	森 勝久 米澤 智一	森 勝久 米澤 智一
	2診			鶴田 雅史	
産婦人科 紹介予約制 ※5	午前	永井 義雄 徳永 修一	徳永 修一	永井 義雄 徳永 修一	徳永 修一
	午後		手術日	手術日	手術日
耳鼻咽喉科 ※6	一般	外山 勝浩 永野 由起	外山 勝浩 永野 由起	外山 勝浩 永野 由起	外山 勝浩 永野 由起
	難聴外来	永野 由起 (14:00~17:00)			
放射線科	初診再診	日野 祐一	新村 耕平	日野 祐一	新村 耕平
	放射線治療	新村 耕平	日野 祐一	新村 耕平	日野 祐一
歯科口腔外科	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	手術日	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞	田畑 雅士 新屋 俊明 西久保 舞
特殊外来	マザークラス (第二・四曜日)		助産師相談室 (午後)	母乳外来	ストーマ外来 (午後)
		フットケア外来 リンパ浮腫外来		リンパ浮腫外来	

### 【その他の特殊診療】

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
胃透視	外科		外科		
骨塩ドック(骨粗鬆症検査) 【予約制(14:00以降)】		整形外科		整形外科	

- ※1 血液内科については原則、紹介予約制としております。事前の予約をお願い致します。医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前にFAX連絡票と共に、最新の血液データを送って下さい。
- ※2 がんサポート外来については、毎月第三月曜の午前中のみ対応となります。
- ※3 呼吸器外科外来の手術日については、急患のみ対応いたします。
- ※4 小児科外来の午後からの診察については、完全予約制となっております。
- ※5 外科初診日(月水金)は紹介初診の患者様の診察は10時以降になります。
- ※6 産婦人科外来については、原則、紹介予約制としております。事前の予約をお願い致します。
- ※7 毎週月曜日午後からの難聴外来については、耳鼻科外来まで事前にお電話での予約をお願い致します。
- ※8 平成25年6月1日より、助産相談室を新設いたしました。事前の予約をお願い致します。
- セカンドオピニオンの受診については、予約制となっております。
- 地域医療連携室までご連絡頂きますようお願いいたします。

〒885-0014 都城市祝吉町5033番地1 TEL (0986)23-4111 FAX【地域医療連携室】(0986)26-1893 FAX【代表】(0986)24-3864



独立行政法人  
国立病院機構

## 都城病院 (地域がん診療連携拠点病院・地域周産期母子医療センター)

〒885-0014  
宮崎県都城市祝吉町5033番地1  
TEL/ 0986-23-4111(代表)  
FAX/ 0986-23-3864  
E-mail/ syomu@miyakonojo.hosp.go.jp  
http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報誌委員会

### 地域医療連携室・相談支援センター

部長 後藤 康高 (統括診療部長)  
 副部長 西山 信二 (経営企画室長)  
 副部長 鳥丸 章子 (地域医療連携係長)  
 時見 信一郎 (企画担当・経営企画係長)  
 和田 智美 (医療相談担当・MSW)  
 佐藤 洋子 (がん相談専門員・看護師)

TELフリーダイヤル (0120)411-329 FAX(0986)26-1893  
 地域医療連携室 E-mail:trenkei@miyakon2.hosp.go.jp  
 がん相談支援室 E-mail:gansodan@miyakon2.hosp.go.jp